

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

— ‘Innovative Made in Japan’を導く

— トレンド予測とテーマの創出 —

(株)ジョンクエルコンサルティング 落合 以臣

A Front End Loading in New Product Development

“Trend forecasting and theme creation”

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

*Keywords:* 上市・量販店・搭載機能・トレンド予測・ニュートラルな視点・テーマ創出

誰もが大きな夢を抱いて開発し上市した製品が、数カ月も経過すると瞬間に上代価格の下落に見舞われてしまう。この現象は、今始まったことではなく量販店が台頭してから永続的に続いています。このような状況の中で、今までに売れた製品の多くは、他社よりも優れた製品価値を有していたからといっても過言ではないでしょう。しかしながら、ここ数年の世界情勢は大きく変わり、過去 20 年の円高の推移に別れを告げ、ここしばらくは円安基調の中で製品構想を練らなくてはならない時代に突入しました。また、市場競争も一段と激しさを増してくると思われまます。したがって、市場競争が目まぐるしく激化する中で、今までのような同類的な製品、あるいは一部の機能を変更した製品等々を上市しても一時は同業他社との競争に耐えることができるかもしれませんが、やがては競争力を失ってしまうと誰もが感じていることでしょう。

こうしたことに鑑み見ますと、開発者自身の目で少し先の世情を掴んだうえで、消費者が欲する製品ニーズを顕在化させ、そこから必要とされる搭載機能の発掘と先行要素技術テーマへの落とし込みが重要になります。ここでいう要素技術テーマとは、発掘された搭載機能に対応した要素技術のことを指します。そのために、少し先を見据えることができるトレンド予測が必要になります。一般的な製品構想の立案では、長期的な観点から製品拡大を目指す姿勢として、10年後の状態を考えておくことも確かに有意義ではあるでしょうが、長期間の具体的な製品構想計画を策定するのは現実的でないし非常に難しいと思われまます。また、1年先という短期的な期間の製品構想では、そこに搭載される機能の技術開発に十分な時間をかけることができないといっても過言ではないでしょう。

したがって、3年から5年程度先の世情を見据えたうえでの製品構想の立案であれば、ある程度将来のことをトレンド予測によって推察することが可能であり、短期的な計画では実現できない技術も搭載機能に反映させることができます。

トレンド予測で重要なことは、新たな情報・事実を見ることによって、自身の活力を盛んにし、それをきっかけにして新たな展開を起こすことです。しかしながら、実際には人間の習性なのかもしれませんが、新たな情報・新事実を捉えても現実的な情報、つまり自身の今までの経験を通して予測しようとする。この結果、折角新たな情報・事実を捉えても過去のものの見方を踏襲するために、その優位性を認めることができないという状況をつくり出しています。したがって、重要なことはニュートラルな視点を持ち、出典を明らかにしたうえで情報・事実を収集し、その内容を整理・加工して製品ニーズ・シーズから必要とされる搭載機能の発掘と先行要素技術テーマへの落とし込みを行うことです。

この JQ International Review が、愛読される方の背中をさらに押すことができれば幸いです。